

# ATEM Newsletter

ATEM公式サイト <http://www.atem.org/>

January, 2022  
No.41

## 国際大会特集号

発行 : 映像メディア英語教育学会事務局  
(旧映画英語教育学会)  
住所 : 〒605-8501  
京都市東山区今熊野北日吉町35  
京都女子大学 文学部  
横山仁視研究室内  
E-mail : office@atem.org

映像メディア英語教育学会 / The Association for Teaching English through Multimedia

### ■会長挨拶

**ATEM President**  
**Hitoshi YOKOYAMA**  
(Kyoto Women's University)



横山 仁視 (京都女子大学)

日頃は本学会の諸活動に対してご理解と多大なるご協力ならびにご助言をいただき深くお礼申し上げます。

冒頭にあたり、過日 11 月 6 日 (土) に開催いたしました「第 26 回映像メディア英語教育学会国際大会」にご参加いただきました ATEM 会員、STEM 会員および賛助会員約 100 名の皆様に深く感謝申し上げます。支部企画のシンポジウムでは、SIG 特集として各支部の日頃の研究活動をご紹介いただきました。また、ATEM-STEM20 周年企画 (特別共同シンポジウム) では、姉妹締結に至る ATEM 発足時に多大なご尽力をいただいた諸先生方のご努力を改めて知る機会となり、コロナ禍において培ったオンラインを活用した新たな英語教育の可能性を実感できた実践報告でもありました。コロナ禍における全面的なオンライン開催ということもあり、参加者の皆様の中には、発表会場ごとに割り当てられた Zoom 設定を切り替えることに煩わしさをお感じになられた方もおられたことでしょう。事前に運用試験を行ったことで大きなトラブルもなく成功裏に終えることができました。特に前大会運営委員長長の藤枝善之先生 (西日本支部) と当日の Zoom 管理・運営の労をおとりいただいた小林敏彦先生 (北海道支部)、プログラムの情報入力作成にお時間を割いていただきました吉村圭先生 (九州支部) には改めて感謝の意をお伝えさせていただきます。誠にありがとうございます。

さて、私横山は、過日の国際大会の総会において二期目

を続投することをご承認いただきました。心を新たに、2024 年の全国大会当日までの 3 年間学会運営を真摯に努める所存です。今後とも会員皆様お一人お一人の一層のご協力を賜りたく、伏してお願い申し上げます。

これからの 3 年間の学会活動に「動き」を与えるために以下の 3 本の矢を放ちます。

1. 従来の全国大会、支部大会に加え、支部企画として行っていた既存のワークショップやシンポジウムの復活。
  2. 本部企画による新たな各月開催企画の開始。(STEM の VPS [Virtual Presentation Series]) に対応する ATEM 版 OOPS [Open Online Presentation Series] (仮称)
  3. 姉妹学会である STEM との教育・研究企画の連携推進。
- これらの 3 本の矢を確実に実行するために、1 については各支部長の先生方には支部の活動の幅を広げることを大前提に今一度強力にお考えいただき、2 については本部専務理事 (大会・企画担当) として小林敏彦先生 (前北海道支部長) を起用し、3 については小林先生と井村誠先生 (国際交流委員長、西日本支部) との協力体制のもと具現化していきます。また、これらの年間を通じた「動き」のある学会活動を、学会員はもとよりホームページその他の広報媒体 (Twitter、Facebook、LINE など SNS、関係雑誌、言語系連合学会) を積極的に活用し、リアルタイムでスピード感を持った広報活動を実行するため、本部専務理事 (広報・連携推進担当) として松田愛子先生 (北海道支部) をお迎えしました。結果的に現会員にとって ATEM が研究・教育活動の持続的可能な拠点の一つとなると同時に、新規会員の獲得につながることを切に願うものです。

末筆ではありますが、本学会の前身である映画英語教育学会 (ATEM) の中心的創立者であり、名誉理事としてご貢献をされた故鈴木雅夫氏 (10 月 14 日永眠) に対して、生前に賜りました数々のご恩に感謝いたしますとともに、改めて心からご冥福をお祈りいたします。

## ===== 国際大会報告 =====

## 第26回 ATEM (映像メディア英語教育学会) 国際大会

## 映像メディアで異文化への意識を高める

— ATEM-STEM 交流 20 周年 —

Enhancing Intercultural Awareness through  
Multimedia

2021年11月6日(土) オンライン開催

## ■特別共同発表

The Power of Nonverbal “Chunks” in Language  
Teaching

BERGLUND Jeff (Special Advisor of ATEM)

LEE Jawon (Honorary President of STEM)



(上) Berglund 先生 (下) Lee 先生

語彙や文法が重要なコミュニケーション能力の要素であることは自明であろう。しかし頭の中で単語を文法に従いブロックのように並べて発話しても、流暢に話せるとは限らない。Lee 先生のご発表は、流暢さ (fluency) を育成するためには、定型的なフレーズ (意味チャンク) を多量に貯えて、それらを無意識に使えるようにすることが必要で、そのためには状況文脈に応じた定型表現が豊富に見られるドラマや映画が、非常に有効な教材になるということを説かれたものであった。

一方 Berglund 先生のご発表は、非言語的コミュニケーションにおいても、チャンクが大切であるというお話であった。Birdwhistell (1970) によれば、人間のコミュニケーションの内、言語メッセージが占める割合はせいぜい 30%~35%程度に過ぎず、残りの部分は非言語的な要素であるという。今日、ノンバーバルコミュニケーションの研究分野 (対象) は、KINESICS (動作)、PROXEMICS (相手との距離)、HAPTICS (身体接触)、OCULESICS (アイコンタクト)、CHRONEMICS (時間感覚)、OLFACTICS (におい)、VOCALICS (声の出し方)、SOUND SYMBOLS (間投詞など)、SILENCE (沈黙・間)、ADORNMENT (服装・アクセサリ・ヘアスタイルなど)、POSTURE (姿勢)、EXPRESSION (表情) など多岐に渡っている。そして、これらはそれぞれ話者が属する文化によって多様に異なっており、互いを理解するためには非常に重要なコードとなる。しかし、それらのコードは独立してバラバラに存在するのではなく、有機的に結びついており、それを Berglund 先生はノンバーバル・チャンクと呼ばれたと理解している。

Birdwhistell, R. L. (1970). Kinesics and context: Essays on body motion communication. University of Pennsylvania press., pp. 157-158.

(井村 誠)

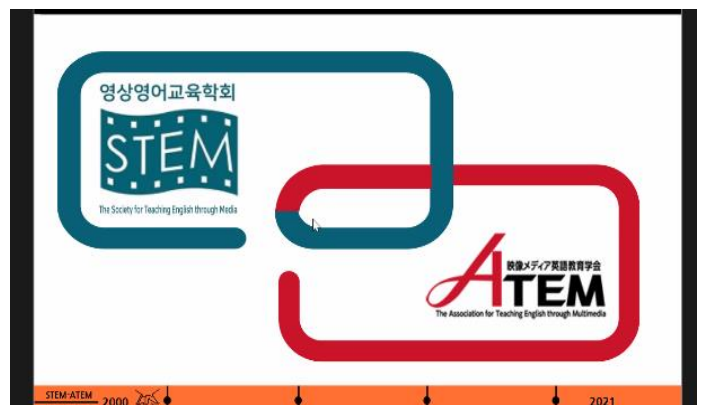
## ■特別共同シンポジウム

Making English the Lingua Franca in EFL  
through Multimedia: Then and Now

KANEDA Naoko (Kyoto Women's University)

ROH Yoona (Kookmin University)

SPRING Ryan (Tohoku University)

LEE Yun Joon Jason (Daegu National University of  
Education)

(上) Roh 先生のご発表で紹介された両学会のロゴ



金田先生



Roh先生

ATEM-STEM 特別シンポジウムでは Roh 先生が STEM の韓国英語教育への貢献とその変遷を紹介した。

学会設立当時、映画を授業や教育現場でどのように活用していくかという議論の前に、映画＝エンターテインメントであるという認識が強かったため苦労したことなどを当時のエピソードを交えて発表した。また映画を使ったオリジナル教科書の制作など多岐にわたる学会の活動を紹介した。金田は、ATEM の創立者のお一人である故鈴木雅夫社長（スクリーンプレイ社代表）の学会結成の経緯を、当時の学会活動を知る先生方からご教授いただき発表した。また、ATEM と STEM のこれまでの 20 周年にわたる友好関係について当時の写真で振り返った。

(金田 直子)



Spring先生



Lee先生

Lee 先生と Spring は、これまでのオンライン国際交流研究を紹介し、二人で挑戦した学生同士の交流プログラムを説明した。コロナ禍の下で、数多くの授業がオンライン化となった中、今こそがオンライン国際交流のチャンスであるが、学生同士の交流はそう簡単にはいかないようである。学生が控え目で、最初は思うように交流に取り組んでいなかったが、マルチメディアを通じて、学生同士の共通経験を作るのはモチベーションの向上や意味のある交流に繋がることに気付いたと語った。また、先生同士もお互い学び合え、交流は学生のみならず、教員にも有意義であることを指摘した。この話から、STEM と ATEM の今後の絆が大事であることが確認できた。

(SPRING Ryan)

## ■表彰式・総会

総会ではまず、横山会長から学会活動の活発化を目指す方針と、それに伴う新役員体制が発表され、承認を受けました。また、第 27 期決算、ATEM の会則変更案についても報告が行われ同じく承認されました。最後に、『映像メディア英語教育研究』第 26 号において、ATEM 優秀論文賞を飯田泰弘先生（岐阜大学）が受賞されたことが公表されました。

(巳波 義典)

### ●受賞のことは

#### <優秀論文賞>

一般動詞型 there 構文で考える映画英語教材を活用したコミュニケーション能力の育成

飯田 泰弘 (岐阜大学)

この度は、大変名誉な賞を頂戴し、とてもありがたく、光栄に感じております。論文の査読や賞の審査に関わっていただいた方々に、心より感謝申し上げます。

昨今のコロナ禍で「おうち時間」が増え、日本でも映画やドラマをはじめとする、映像メディアへの注目が高まりました。そしてそう遠くない未来、コロナ禍を抜ければ、全国各地で再び国際交流が始まり、英語力をつけて海外に飛び立ちたいと願う学習者も増えると思います。そのようなニーズに対して、映像メディアを通して効果的な英語教育を提供できるよう、この賞を励みに、今後も日々精進してまいります。コロナ前の日常が戻り、ATEM 会員の皆様とも対面でお会いできる日を心待ちにしながら、今後も ATEM への貢献を果たしてまいります。



## SIGs (Special Interest Groups)とは？

支部内および支部の垣根を越えた研究・教育活動の促進を目指して設立されたグループです。既に申請されている SIGs の詳細につきましては、本学会 HP をご参照ください。各 SIG への質問等は、直接代表者の方へご連絡ください。

### ■シンポジウムA（九州支部推薦）

#### 文化・文学／映画分析研究 SIG

#### 映画音楽に見る社会問題：差別・貧困・ジェンダー



（上から）吉村先生、砂川先生、秋好先生

本シンポジウムでは、映画音楽／音楽映画（ミュージカル映画・挿入歌等）とそこに映し出される社会問題を共通項として議論を行った。まず、秋好礼子先生（福岡大学）は、人種差別の観点からミュージカル *Hairspray* とその同名映画を扱い、同一のマイノリティグループ内においても多様な価値観が混在することが、作中で歌われる楽曲の詞にあらわれていることを明らかにした。次に砂川典子先生（北海道教育大学釧路校）は英米文化教育の観点から、Charles Dickens の *Oliver Twist* のミュージカル映画版 *Oliver!* を使い、そこに映しだされる「労働者としての子ども」の問題について考察を行った。最後に吉村圭先生（九州女子大学）は A. A. Milne の *Winnie-the-Pooh* に献辞としてつけられた妻 Daphne への詩、及び、ディズニーによるアダプテーション作品の挿入歌の詞を用い、そこに映しだされる女性像の問題について考察を行った。

### ■シンポジウムB（西日本支部推薦）

#### 英語学 SIG

#### 映画と試験で紐解く英語の世界

英語学 SIG は①～③の関連言語現象を議論した。

##### ① 福嶋剛司先生（北洋大学）

Though 移動を情報構造の観点から検討し、話題化と同じく移動した要素が旧情報として機能することを概観した。またその旧情報が後に提示する主張に効果的に繋がることを映画と大学入試を例に考察した。

##### ② 石原健志先生（大阪星光学院）、飯田泰弘先生（岐阜大学）

場所句倒置を英語学と学校英語の両観点から比較し、学校英語における場所句倒置構文の説明の問題点を指摘した。また映像メディアを用い、英文法学習について高校生にアンケートを実施した結果を報告した。

##### ③ 倉田誠先生（京都外国語大学）

談話辞 speaking of X(SoX)を先端の先行研究から論じた。また SoX の下位範疇である、SoW(W=which) と SoZ(Z=Zero)の意味と機能を映画と試験問題から考察した。

これらを含む 120 以上の英語学の現象の概説と映画データと入試問題と TOEIC に焦点を置いた参考書籍を 2022 年 11 月にくろしお出版より上梓する。



（左上）倉田先生

（右上）石原先生

（左下）福嶋先生

（右下）飯田先生

## ■シンポジウムC（中部支部主催） メディアを使ったオンライン・オフラインによる授業実践報告

2021 年度も変わらずコロナ禍での授業を強いられる状況が続いたため、中部支部では高等学校ならびに大学での授業実践報告を企画し、シンポジウムを行った。岩本昌明先生（富山県立富山北部高等学校）、堀内ちとせ先生（藤田医科大学）、そして本報告者の井土康仁先生（藤田医科大学）の3名が、それぞれ授業の実践例を提示した後、質疑応答を行うなど、活発な議論が交わされた。岩本先生は、ホセ・ムカヒ大統領のスピーチ映像を用いての授業実践を紹介された。映像を視聴後、大統領に宛てた手紙を生徒に書かせるといった、アウトプット重視の授業法を提案された。堀内先生は、ドラマ *Modern Family* を使うことで、学生のモチベーションが高まることを、授業評価の結果から立証された。最後に井土が、大学におけるオン/オフラインでの様々な授業形態の実践報告を行った。



岩本先生

### その他の SIG (ATEM HP 掲載)

- ビジネス英語研究会  
(SIG on Business English)
- 医療英語研究会  
(SIG on Medical English)
- 映画映像とコーパスによる文化的英語教育研究会  
(SIG on Teaching Culture and English through Movies and Corpus)
- 資格試験英語研究  
(SIG on English for Certified Tests)

## ■シンポジウムD（東日本支部推薦） SIG on the English of Movies, TV Dramas, and YouTubes

### How the English of Movies, TV Dramas, and YouTubes Can Contribute to the Development of Practical English Education: Present perfect



(左上) Otsuki 先生

(右上) Spring 先生

(左下) Hanagami 先生

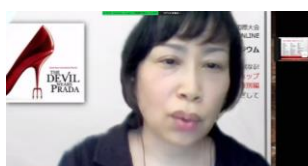
(右下) Nakamura 先生

本 SIG 研究は、実用英語習得促進のために、従来の学習過程（学校・教科書で学習する文法項目の順番や Unit の並び、用いる語彙・例文等）の見直しを提案している。具体的には、学習過程の中で位置づけられている文法項目・構文に該当する言語現象を映画・ドラマ・YouTube・言語コーパス等から集め、実際の言語活動で多用されている文法・構文と、学校文法・構文との乖離を分析研究を行っている。本大会では、その第1弾として「現在完了形」を取り上げた。発表は①大月敦子先生（専修大学）は「現在完了形」の現在の学習指導と実用英語との乖離について、②ライアン・スプリング先生（東北大学）が「現在完了形」の叙法(mood)としての機能・役割、③中村佐知子先生（東北大学）は「現在完了形」に共起する副詞の使用例と教育における提案、④濱上桂菜先生（獨協大学）は“， which”構文と共起する「現在完了形」の分析から実用英語学習に相応しい語彙を提案し、それぞれが実用英語教育の発展に貢献すべく研究発表を行った。

## ■シンポジウム E (北海道支部主催)

### 日本語も英語も楽しくなる通訳翻訳ワークショップ『プラダを着た悪魔』特別編—SIG 立ち上げをめざして—

本シンポジウムでは3月の支部大会にて1作品を取り上げ、様々な角度から通訳翻訳ワークショップを行った4人が、その後に進めた研究について発表した。通訳コーディネーター経験のある松田先生(北海道大学)は、セリフの対訳と映像翻訳の体験・比較授業、北間先生(北海道大学ほか)は通訳者としての視点を生かしたオンライン授業の取り組み、字幕翻訳者の経験豊富な遠藤先生(藤女子高校)は、高3と高2クラスで行った字幕翻訳体験の比較について報告し、メディア文化論研究者の斉藤先生(北海道大学)は、ジェンダーの視点から作品の特徴と翻訳の関係性を考察した。他言語への的確な変換作業に注目し、言語への柔軟な関わりを促しつつ異文化理解を深める授業のヒントが詰め込まれ、速やかなSIG立ち上げが期待される内容であった。



(左上) 松田先生  
(左下) 遠藤先生

(右上) 北間先生  
(右下) 斉藤先生

## ■第26回国際大会研究発表一覧

タイトルの表記言語は発表での使用言語を指す。  
敬称略。

### 【Session 1】

『海の上のピアニスト』(Legend of 1900, 1998) — “A Good Story” と 超越的体験 としての 映画 —

日影 尚之 (麗澤大学)

Report of “Learning English with Group LINE”

NISHI Yoshikazu (freelance)

Examining on the Pandemic Pedagogy English Teachers of Korea Have Implemented

HAN Yurim (Sinam Middle School)

JO Jihyung (Yongmoon Middle School)

### 【Session 2】

ディズニー素材を用いた英語教育の一考察

仲川 浩世 (大阪女学院短期大学)

安田 優 (関西外国語大学)

Watching Video Clips Is Not Just for Receptive Skills

IWASAKI Hirosada (Tsukuba University)

Students' Participation in Synchronous and Asynchronous Video-based Group Activities

IM Hee Joo (Dankook University)

### 【Session 3】

『クレイジー・リッチ』2018 に描かれる「アジア」

吉牟田 聡美 (活水女子大学)

A Further Look at Font Selection and Its Effect on L1 Japanese EFL Learners Reading Speed and Accuracy

SHEWACK Eric (Tokyo Keizai University)

A Study of Research Trends in Artificial Intelligence-assisted Language Learning in Second Language Acquisition Using Text Mining: Focusing on English/Korean as a second language acquisition

KWON Eun-Young (Korea Military Academy)

### 【Session 4】

映画『レイニーデイ・イン・ニューヨーク』2019 に観る若者文化の様相

塚田 三千代 (映画アナリスト、翻訳家)

自律的学習型授業外課題 Video Report の実践—学習と実用との関連性と真正性を求めて—

ラムスデン 多夏子 (京都外国語大学)

松井 夏津紀 (京都外国語大学)

Genre-based Online Collaborative Writing

LEE In-hye (Daegu National University Attached Elementary School)

### 【Session 5】

黒人女性の映画でたどる Black Lives Matter にいたるまで

藤倉 なおこ (京都外国語大学)

コロナ禍における映像メディアを活用した医療英語教育

北間 砂織 (北海道大学、通訳)

Professors' and Students' Perceptions toward Online Classes Caused by COVID-19

PARK Seong Man (Dankook University)

### 【Session 6】

How the Global Response to the Manga and Animation Series ‘Demon Slayer’ Can Provide Us with an Insight into Differing Cultural Perspectives

KAVANAGH Barry (Tohoku University)

オンラインクラスにおけるリーダーの役割

関口 美緒 (メリーランド大学グローバルキャンパス)

A Study of Polytechnic College ELLs' Recognitions on Practical English Class with AR-embedded Contents

YOON Tecnam (Chuncheon National University of Education)

KIM Byungsun (Catholic Kwandong University)

## ■支部だより

### 【北海道支部】

◆毎月一回、英語で開催してきた研究発表会 OOPS! (Open Online Presentation Series)に加え、9月11日には日本語でよりカジュアルに交流する J-OOPS Café を一度実験的に開催しました。他支部の会員も含め、合計19人にご参加いただきました。

◆11月7日より、これまで支部長であった小林敏彦先生がATEM 副会長となり、斉藤巧弥が支部長に就任しました。この交代に合わせ、運営委員の役割の再考や支部内規の作成など、運営の刷新を図るための作業を進めています。

(支部長：斉藤 巧弥)

### 【東日本支部】

◆2021年10月3日に支部共催オンラインセミナーを実施し、FILTA (Film in Language Teaching Association) の Dr. Carmen Herrero 教授 (マンチェスター・メトロポリタン大学) および Dr. Isabelle Vanderschelden 氏に、映像メディアと外国語教育の新たな実践・研究についてご講演いただき、様々な可能性について質疑が行われました。

(支部長：日影 尚之)

### 【中部支部】

◆6月より中部支部の今年度の運営委員として、(五十音順で) 岩本昌明先生 (富山県立富山北部高等学校)、都築雅子先生 (中京大学)、堀内ちとせ先生 (藤田医科大学)、山崎僚子先生 (名古屋学院大学) にご協力いただいております。今年度の支部大会を、今年の3月に開催する予定であります。最後に、長年にわたって中部支部にご尽力いただきました鈴木雅夫さんが、10月に永眠されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

(支部長：井土 康仁)

### 【西日本支部】

◆第18回西日本支部大会を2022年3月19日(土)に、昨年度と同様、オンラインで開催いたします。今回のプログラムは、資格英語 SIG による企画ワークショップに加え、昨年度に引き続き、ATEM の著作権問題顧問の甲野正道先生 (大阪工業大学) による、英語教育におけるメディア利用に関する著作権フォーラムを予定しております。また、特別講演では、岐阜大学の巽徹先生を講師にお迎えして、学習指導要領改訂を踏まえた英語教育の実践についてご講演いただくこととなっております。多くの方の参加をお待ちしております。

(支部長：近藤 暁子)

### 【九州支部】

◆9月4日(土)に、第23回九州支部研究大会が Zoom によるオンライン形式で開催されました。残念ながら対面での開催はかないませんでした。いつもの九州支部らしい、和やかなムードの大会でした。当日は、福岡、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄と、九州各地からご発表があり、また、九州支部会員の方々のもとより、全国各地から大勢の皆さまにご参加いただきました。オンライン開催のメリットが感じられる大会でした。

(支部長：吉村 圭)

## ■委員会だより

### 【ジャーナル編集】

◆ATEM ジャーナル第27号には8編の論文の投稿がありました。分野別では、教育3編、文化3編、言語1編、文学1編で、今回もすべての支部から投稿がありました。ご投稿くださいました会員の皆様に御礼申し上げます。また査読委員の皆様にはお忙しいところご協力いただき御礼申し上げます。

◆APA 論文作成マニュアル第7版出版に伴い投稿者用ガイドラインが更新されました。今後も投稿関連書類を随時更新していく予定です。

(委員長：足利 俊彦)

### 【国際交流】

◆第24回 STEM 国際大会は、コロナ禍により2020年、2021年ともに開催が見送られました。2022年の開催も未定ですが、2020年度より STEM では Zoom によるオンライン・プレゼンテーション (STEM VP: STEM Virtual Presentation) を定期的に行っており、北海道支部主催の月例オンライン発表会 (OOPS: Open Online Presentation Series) と相互乗り入れの形で、交流が活性化しております。会員の皆さまには今後も開催情報を会員メールでお知らせしますので、どうぞお気軽にご参加ください。

◆第26回 ATEM 国際大会には、STEM から25名以上の先生方が参加され、計7件の発表がありました。特別発表と特別共同シンポジウムの詳細につきましては、本誌 p.2-3 をご参照ください。

(委員長：井村 誠)

### 【大会運営】

◆今年度の全国大会は11月6日(土)に、コロナ禍のために初めてオンラインの形式で「第26回 ATEM 国際大会」を開催しました。研究発表、支部企画の他に STEM との姉妹学会提携20周年を記念する特別共同発表や共同シンポジウムも開催され、大きな盛り上がりを見せた大会となりました。今大会にご参加頂いた皆様に改めて感謝申し上げます。

(委員長：小林 敏彦)

### 【会員管理】

◆新しい会員管理システムへの移行を検討しております。それに伴い、現会員管理システム内の個人情報への更新をお願いいたします。また、メールアドレスが変更になった場合には、ATEM 事務局 office@atem.org にも直接ご連絡をいただけますと幸いです。何かとご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力のほどお願い申し上げます。

(委員長：嘉来 純一)

### 【ICT】

◆サーバの不具合により、本部サイトが更新されない状態が続いておりましたが、2021年6月1日にウェブページを一新し公開することができました。ご不便をおかけした皆様にはお詫びを申し上げます。この度のコロナ禍ではオンラインによる学会活動を余儀なくされ、ICT の重要性が再認識されました。これを心して、学会の更なる活性化を目指し努めていきたいと考えております。

(委員長：巳波 義典)

## ■決算報告

## 第27期 ATEM (映像メディア英語教育学会) 【決算報告書】

2020年4月1日～2021年3月31日

収入の部			支出の部			
前年度繰越		613,477				
会員年会費	2017年度分@5,000	1	5,000	紀要印刷費(抜刷り含む)	316,910	
	2018年度分@5,000	2	10,000	ニューズレター発行費	187,330	
	2019年度分@5,000	8	40,000	ホームページ維持費	サーバ・レンタル代	5,238
	2020年度分@5,000	214	1,070,000	研究活動費	支部活動助成	250,000
	2021年度分@5,000	14	70,000	通信費	電話代・郵送料・切手代他	139,281
賛助会費	2019年度分@10,000	1	10,000	諸会費	言語系学会 年会費	10,000
	2020年度分@10,000	8	80,000	会議・遠隔地補助	理事会開催遠隔地旅費補助 他	80,760
書籍売上	紀要・著作権ハンドブック		25,010	消耗品費	会計ソフト等	62,426
受取利息			3	雑費	振込料他	4,290
小計			1,923,490	小計		1,056,235
					みずほ銀行	404,397
					郵便振替口座	442,248
					小口現金	20,610
					翌年度繰越金	867,255
合計			1,923,490	合計		1,923,490

※個人会員 347名・賛助会員 11社

昨年度参考 ※個人会員362名・賛助会員 12社

2021年10月20日 上記の通り相違ありません

会計監査 森 智幸

森



## ATEM Clapper Board

- 1) 第26回全国大会へご出展いただいた賛助会員は、下記の皆様です。この場をお借りしてお礼を申し上げます。(50音順)

記  
朝日出版社 成美堂

- 2) ATEMの学術活動は皆様の会費で運営しております。未納の方々には、至急お支払いいただきますようお願い申し上げます。※会費納入方法(振込)については、本部HPをご参照ください。  
<http://atem.org/membership-fee.html>

- 3) 支部にて対面ワークショップを開催する場合は、運営補助金の申請が可能です(審査あり)。詳細は事務局までお問い合わせください。

(事務局)

## ～編集後記～

- ◇年末年始のお忙しい中、本号作成に様々な形でご協力くださいました皆様に、心よりお礼申し上げます。  
◇次号は2022年5月頃に発行予定です。

## &lt;賛助会員一覧&gt; 2021/11/30 現在 (50音順)

国際トラベル京都  
朝日出版社  
英宝社  
桐原書店  
金星堂  
国際ビジネスコミュニケーション協会  
コスモピア  
松柏社  
成美堂  
センゲージラーニング  
モデル・ランゲージ・スタジオ

※当NL掲載の固有名詞は、各社が商標として使用している場合があります。

[ATEM Newsletter 編集委員会] 2021.12.10 現在

委員長：秋好礼子(九州)

委員：田口雅子(北海道) 杉浦綾子(東日本)

井土康仁(中部) 衛藤圭一(西日本)

石田もとな(九州)

©ATEM All rights reserved.

映像メディア英語教育学会  
ATEM  
The Association for Teaching English through Multimedia